

学 位 論 文 要 旨

氏 名 岡部友峻

題 目 制御できない性的行動の実態解明と維持・増悪プロセスに関わる
心理的要因の検討

強迫的性行動症 (Compulsive sexual behavior disorder) とは、強烈で反復的な性的衝動を制御できず、反復的な性的行動を引き起こす持続的なパターンを特徴とし、制御できない性的行動が日常生活に重大な悪影響を及ぼす精神疾患である (Kraus et al., 2018)。国際疾病分類の第11回改訂版 (ICD-11) に新たに認定されたことで、制御できない性的行動に悩む人々が支援機関に繋がりやすくなることが期待されている (原田, 2019)。そのため、臨床医やカウンセラーなどの支援者は、自助グループとは異なった立場から支援に携わることが求められる (Gola & Potenza, 2018)。一方で、強迫的性行動症に対する効果的な治療法は十分に確立されておらず、効果的な支援を提供するために、実証的な研究知見が求められている。また、本邦では、強迫的性行動症に関する研究知見は乏しく、その問題の実態は明らかにされていないのが現状であった。したがって、本邦の制御できない性的行動の実態を明らかにし、制御できない性的行動の維持・増悪プロセスに関わる心理的要因としての性的行動の機能と感情制御困難性の関連を明らかにすることを目的として研究を実施した。

まず、第1章では、制御できない性的行動に関する先行研究の動向について概観し、課題点を整理した。具体的には、強迫的性行動症としてICD-11に収載されたことで、診断基準に基づいた統一的な定義を用いて研究を集積していくことが求められている現状が示された。また、制御できない性的行動に対する支援を提供するためには、その特徴を定量的に明らかにし、制御できない性的行動に対する客観的な理解を高める必要性が確認された。さらに、これまで検討された介入法は多様な治療要素によって構成されているため、活用できる資源に限りがある臨床現場での活用を見据えると、制御できない性的行動の維持・増悪に関わる中核的要因に焦点づけた支援法を検討する必要性が示唆された。そして、そのような要因として性的行動の機能と感情制御困難性が提案された。

そして、第2章では、本邦においては、ICD-11の強迫的性行動症の特徴に基づいて、制御できない性的行動の評価ツールは開発されていなかったため、制御できない性的行動を測定する自己報告式尺度を開発した。その結果、19項目5因子で構成されるCompulsive sexual Behavior Disorder Scale-19の日本語版が作成され、信頼性と妥当性が確認された。これによって、本邦において制御できない性的行動を測定することが可能となった。

次に、第3章では、制御できない性的行動に関する本邦の実態が明らかにされていないという課題から、潜在プロファイル分析を用いて、強迫的性行動症を抱えるリスクの高い個人が2.5%で存在す

ることを特定した。また、本邦で確認されたリスクの高い集団が諸外国と比較して同様の実態であるかを検討するために、日本、韓国、英国を対象に調査を行った。その結果、本邦の実態は諸外国と同様であることが確認された。そして、本邦の制御できない性的行動の特徴を調査したところ、強迫的性行動症を抱えるリスクの高い個人は、リスクの低い個人と比較して、いくつかの生活領域における生活の質が低く、高い抑うつ症状や不安症状、ADHD症状を抱えており、性に関して不安や恥ずかしさを抱えていることが示された。これらのことから、本邦における制御できない性的行動を抱えた者は、支援を必要とする状態にあることが示唆された。

第4章と第5章では、制御できない性的行動に対する効果的な支援法の確立に向けて、制御できない性的行動の維持・増悪に関わる要因について横断調査によって検討した。具体的には、心理的要因として、性的行動の機能と感情制御困難性が考えられたため、これらの要因が社会的要因および生物学的要因を統制したうえでも制御できない性的行動に影響を与えるかを検討したところ、臨床心理学的支援が制御できない性的行動の改善効果をもたらす可能性が示された。さらに、制御できない性的行動と性的行動の機能の関係を感情制御困難性が調整するかを検討した結果、負の強化としての機能を有する性的行動が制御できない性的行動に与える影響性は、感情制御困難性によって調整されることが示された。つまり、負の強化の機能を有する性的行動によって制御できない性的行動がもたらされている場合、感情制御に焦点を当てた支援が効果的である可能性が示唆された。

最後に、第6章では、本研究で得られた結果をまとめて、制御できない性的行動に対する実態および維持・増悪プロセスに関わる心理的要因を示唆し、本研究の限界点について考察した。具体的には、本研究によって、本邦においても制御できない性的行動を客観的な基準に基づいて評価可能な測定ツールが整備されたことで、効果的な支援を提供するために必要な実証的な研究知見の蓄積が可能となり、臨床現場においても活用可能であることを考察した。また、本邦の実態で解明された知見を臨床現場に反映させるための要点についても考察した。そして、本研究は一般集団を対象とした横断研究であるなどの複数の限界点があるものの、性的行動の機能と感情制御に着目した支援の可能性が示唆された。